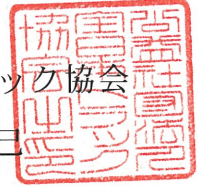


全ト協発第490号(環)

令和元年12月10日

各都道府県トラック協会会長 殿

公益社団法人 全日本トラック協会
会長 坂本 克己



運転者の体調急変に係る事故の発生を踏まえた 管理の徹底について

平素は当協会の事業運営に種々ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、12月4日、バスが東京都新宿区の都道を走行中、ハイヤーに追突し、さらに中央分離帯を乗り越え、街路樹に衝突し止まり、ハイヤーの運転手が死亡する事故が発生し、事故原因については調査中ではあるものの、当該バスの運転手がインフルエンザに罹患していたことが判明した事案を受け、国土交通省自動車局安全政策課長から、別添のとおり、安全に運行することができないおそれがある状況での運行を行わないよう、改めて周知徹底を図るよう要請がありました。

つきましては、乗務前点呼時において体調が正常であった場合においても、運転者が運行中に体調が急変し運行に悪影響を及ぼす場合もあることから、事業用自動車の安全確保に万全を期すため、別添通達の記について、貴協会におかれましても、傘下の会員事業者に対する周知徹底を図っていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

参考：「インフルエンザとは」(国立感染症研究所ホームページ)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/219-about-flu.html>

(本件に関する問い合わせ先)

公益社団法人 全日本トラック協会 交通・環境部

電話：03-3354-1045 FAX：03-3354-1019

公益社団法人全日本トラック協会長 殿

国土交通省
自動車局安全政策課長



運転者の体調急変に係る事故の発生を踏まえた管理の徹底について

12月4日、バスが東京都新宿区の都道を走行中、ハイヤーに追突し、さらに中央分離帯を乗り越え、街路灯に衝突し止まり、ハイヤーの運転者が死亡する事故が発生しました。事故の原因については調査中ですが、当該バスの運転者が事故後に搬送された病院にて、インフルエンザに罹患していたことが判明しました。

一般的に、インフルエンザウイルスに感染してから1～3日間ほどの潜伏期間の後、発熱（通常38℃以上の高熱）、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが突然現われるとされております。（参考 国立感染症研究所HP）

自動車運送事業者におかれましては、乗務前点呼時において、体調が正常であった場合においても、運転者が運行中に体調が急変し運行に悪影響を及ぼす場合もあることから、事業用自動車の安全確保に万全を期すために、下記事項について貴会傘下会員に対し改めて周知徹底をお願い致します。

記

自動車運送事業者は、以下のことを改めて徹底するとともに、安全に運行をすることができないおそれがある状況での運行を行わないこと。

- ① 運転者に対して運行中に体調の異変を感じた時に、無理に運行を続けると非常に危険であることを理解させ、運行中に体調の異常を少しでも感じた場合、速やかに営業所に連絡する等の指導を徹底すること。
- ② 運行中の運転者の体調変化等による運行中止等の判断・指示を適切に実施するための体制を整備すること。
- ③ 運転者が体調異変等の報告をしやすいような職場環境を整備すること。
- ④ 職場内におけるうがい、手洗い及び消毒用アルコールを使用した手指消毒の徹底すること。

（参考）国立感染症研究所HP

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/219-about-flu.html>